第2章　まちづくりにおける現状・課題の整理

本章では、本市の成り立ちや人口動態や土地利用の変化、まちづくりに対する市民の評価をふまえて、現在の強みと今後のまちづくりにおける懸念や課題、対応すべき要点を整理します。

第２章　まちづくりにおける現状･課題の整理

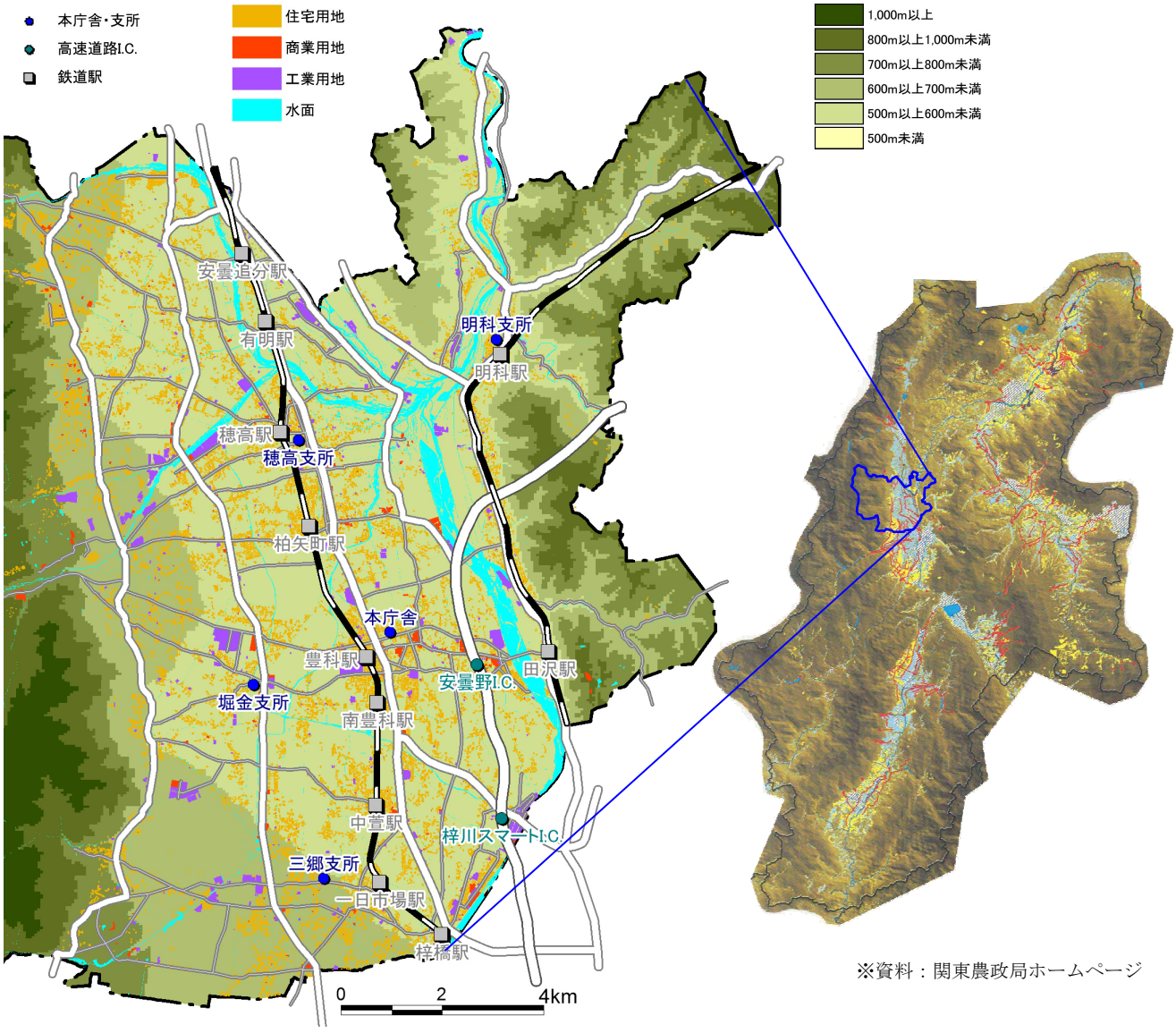
２.１　本市の特徴

１）地形的条件

●東西は山地･山岳に囲まれ、西側には 3,000m 級の山々が連なっています。
●南北に開け、四方から河川が集まって一部に河岸段丘が形成されています。
●比較的平坦な複合扇状地が広がり、可住地面積は県内有数の広さです。

２）集落･市街の形成過程

●戦後の復興と人口増加の流れのなかで、散在していた小集落が徐々に拡大し、一定のまとまりをもつ大きな集落を形成してきました。
●南北に貫く JR 大糸線や JR 篠ノ井線の駅（穂高駅、柏矢町駅、豊科駅、一日市場駅、明科駅等）を中心に市街が発展してきました。
●マイカーの普及とともに道路整備が進み、市内外、各市街･集落が相互に結ばれ、幹線沿道に店舗が集まり、まちとしての機能が向上してきました。



※資料：関東農政局ホームページ

図　本市の概観

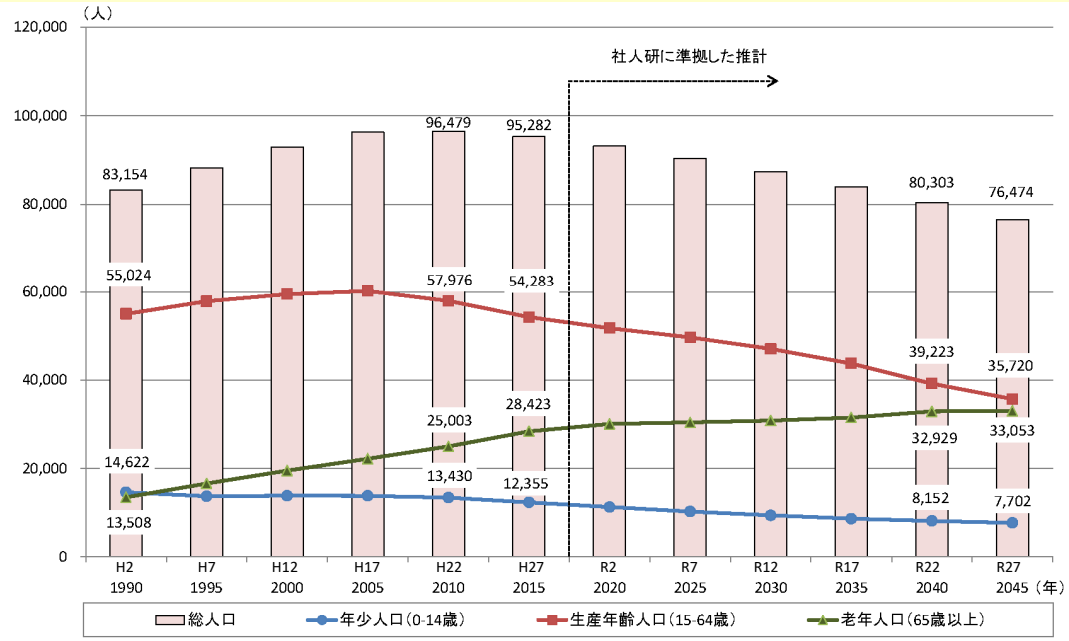
2.2　人口動態と土地利用の変化

1）総人口及び年齢３区分人口構成比率の推移

●総人口は平成 22 年をピークに減少に転じて以降減少が続き、社人研※推計では、本計画終期の令和 12 年（2030）年までに現在より 6,000 人近く減少して、87,000 人台まで落ち込むと予測されています。

●年少･生産年齢人口が減少する一方で、老年人口は増加傾向にあります。

※社人研：国立社会保障･人口問題研究所の略



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」に準拠した国提供のワークシートに示された推計値を使用。

注　：総人口には、年齢不詳も含むため、年齢3区分別人口の合計と一致しない。

資料：安曇野市人口ビジョン［第２版］

図　安曇野市の人口推移

2）開発動向と土地利用制度の効果検証

●豊科地域の区域区分が廃止されて市独自の土地利用制度※が全市適用となった平成 25 年以降の新築住宅の開発事業件数はほぼ横ばいで、今後も一定の住宅開発需要は継続していくものと見込まれています。

※安曇野市の適正な土地利用に関する条例やこれに基づく安曇野市土地利用基本計画等で構成される土地利用制度

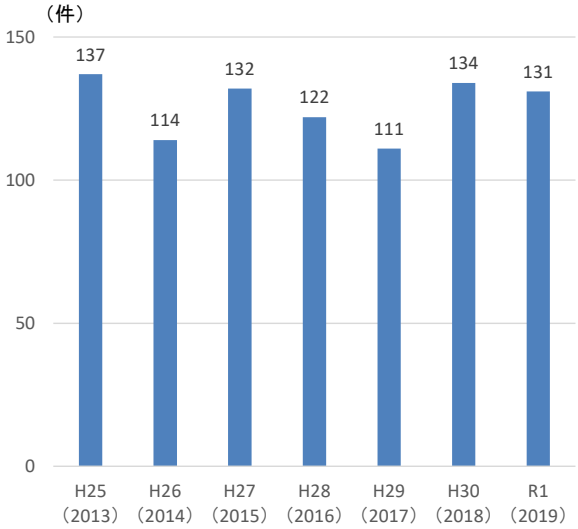


図　新築住宅の開発事業件数の推移

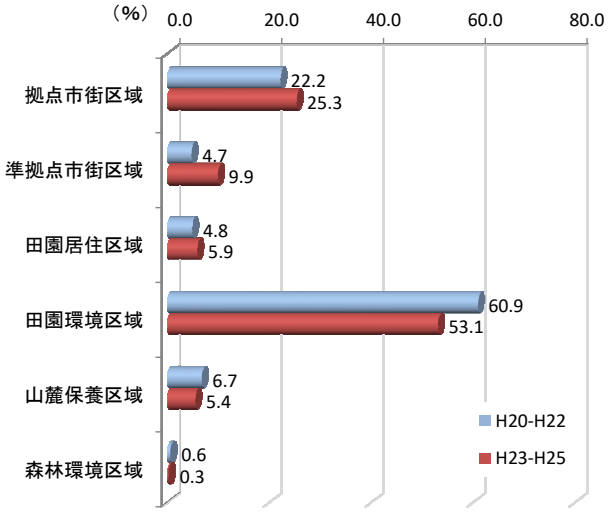


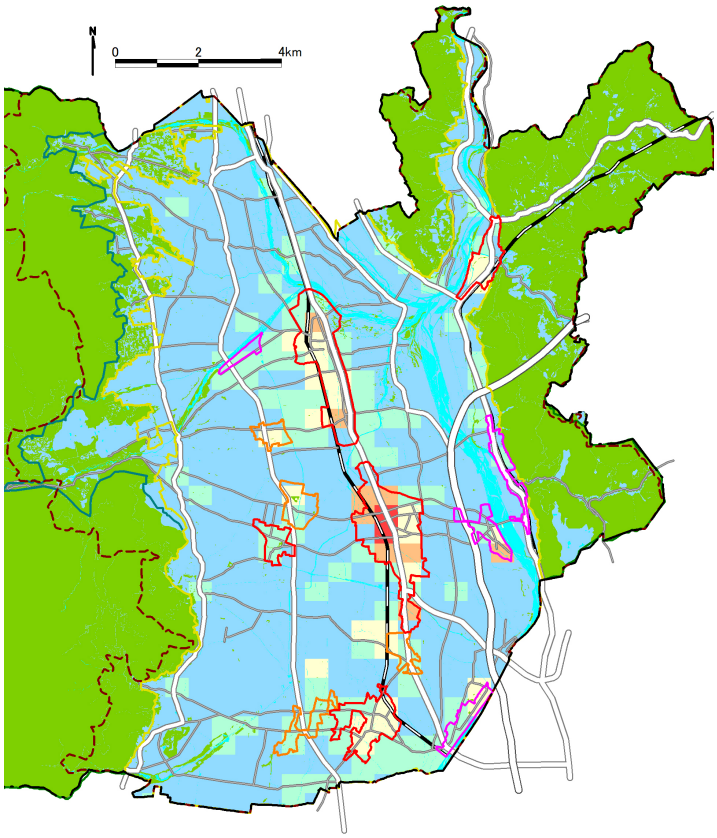
図　土地利用制度の全市適用前後３か年の区域※別の新築の建築確認申請件数比率の変化

※安曇野市の適正な土地利用に関する条例に基づく６つの区域

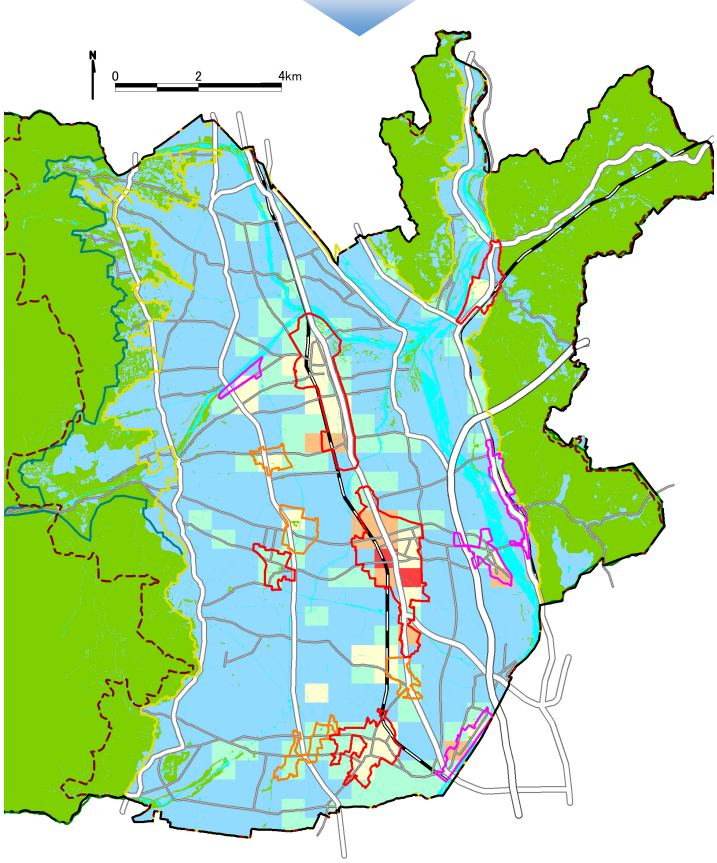
●土地利用制度の全市適用前後３か年の新築の建築確認申請件数を比率にし、区域別に比較してみると、拠点市街区域、準拠点市街区域及び田園居住区域はいずれも適用前より後のほうが比率が増加しているのに対し、田園環境区域、山麓保養区域及び森林環境区域は比率が減少しており、制度の意図する効果が表れていることがわかります。ただ、田園環境区域は区域の面積が大きいこともあり、都市計画区域内では際立って高い比率となっています。

●平成１７年と平成２７年の500m メッシュの国調※人口を用いて人口密度を地理的に比較してみると、上記と同様の効果をわずかながら確認できます。

※国勢調査（統計法に基づき５年ごとにすべての人･世帯を対象に行う統計調査）



平成 17 年（2005）



平成 27 年（2015）

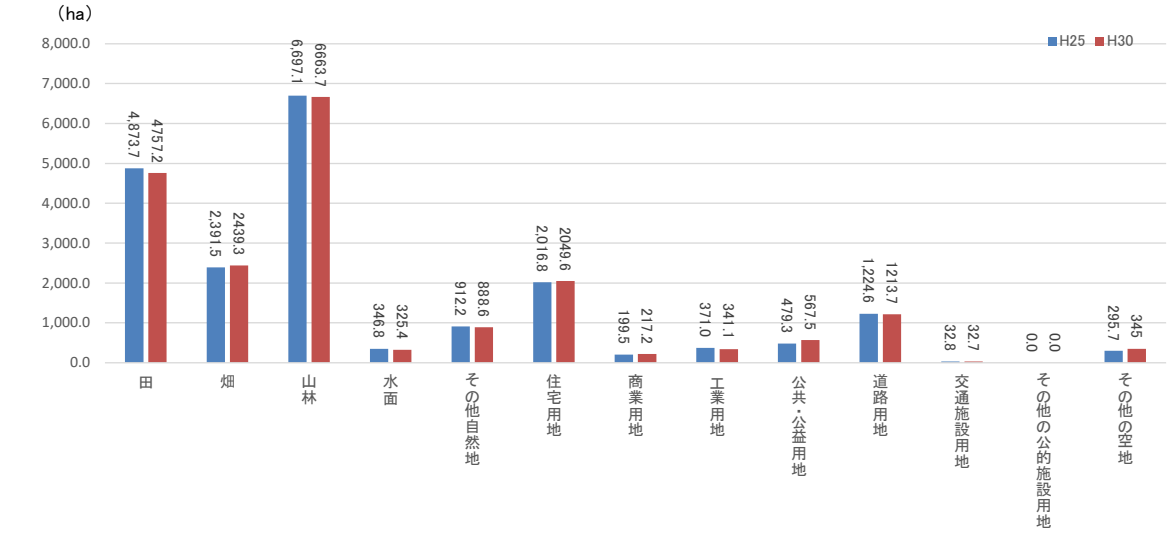
都市計画区域
拠点市街区域
準拠点市街区域
田園居住区域
田園環境区域
山麓保養区域
森林環境区域
山林
水面

1ha当たりの人口密度
40以上
30～40
20～30
10～20
0～10

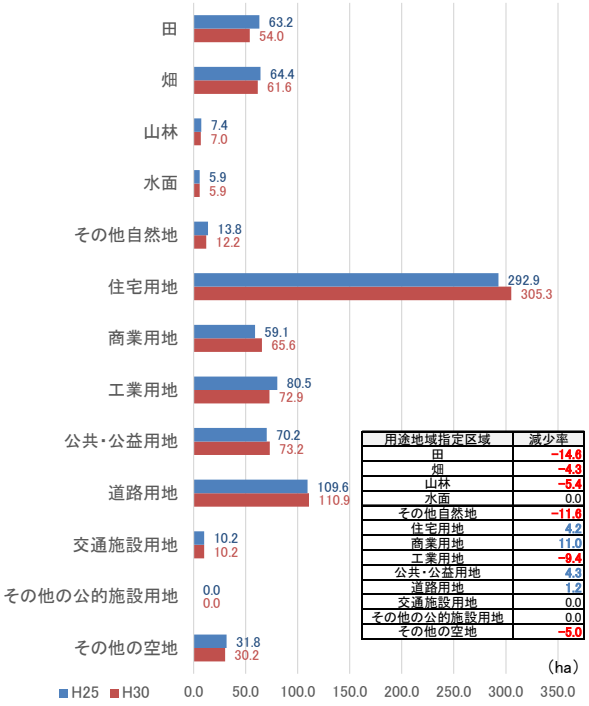
図　500m メッシュの人口による
1ha 当たりの人口密度の変化

●都市計画基礎調査による平成25年から平成30年にかけて用途別の土地利用の変化をみると、田、畑、山林等自然的土地利用が減少する一方で、住宅用地や商業用地、公共･公益用地、道路用地等の都市的土地利用は増加（工業用地だけは減少）しています。

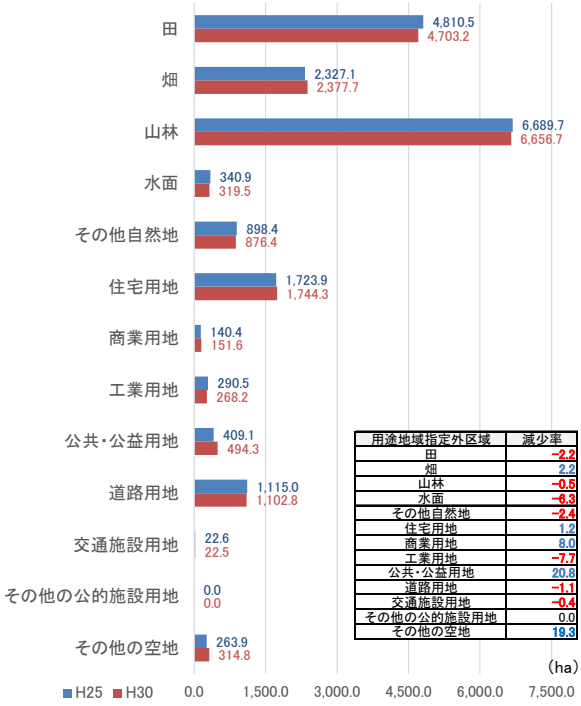
●これを用途地域の内外で比較してみると、都市的土地利用のなかでも特に住宅用地については、用途地域外より用途地域内のほうが増加率は高く、ここでも土地利用条例の意図と符合していることがわかります。



都市計画区域全体



用途地域指定区域	減少率
田	-14.6
畑	-4.3
山林	-5.4
水面	0.0
その他自然地	-11.6
住宅用地	4.2
商業用地	11.0
工業用地	-9.4
公共・公益用地	4.3
道路用地	1.2
交通施設用地	0.0
その他の公的施設用地	0.0
その他の空地	-5.0

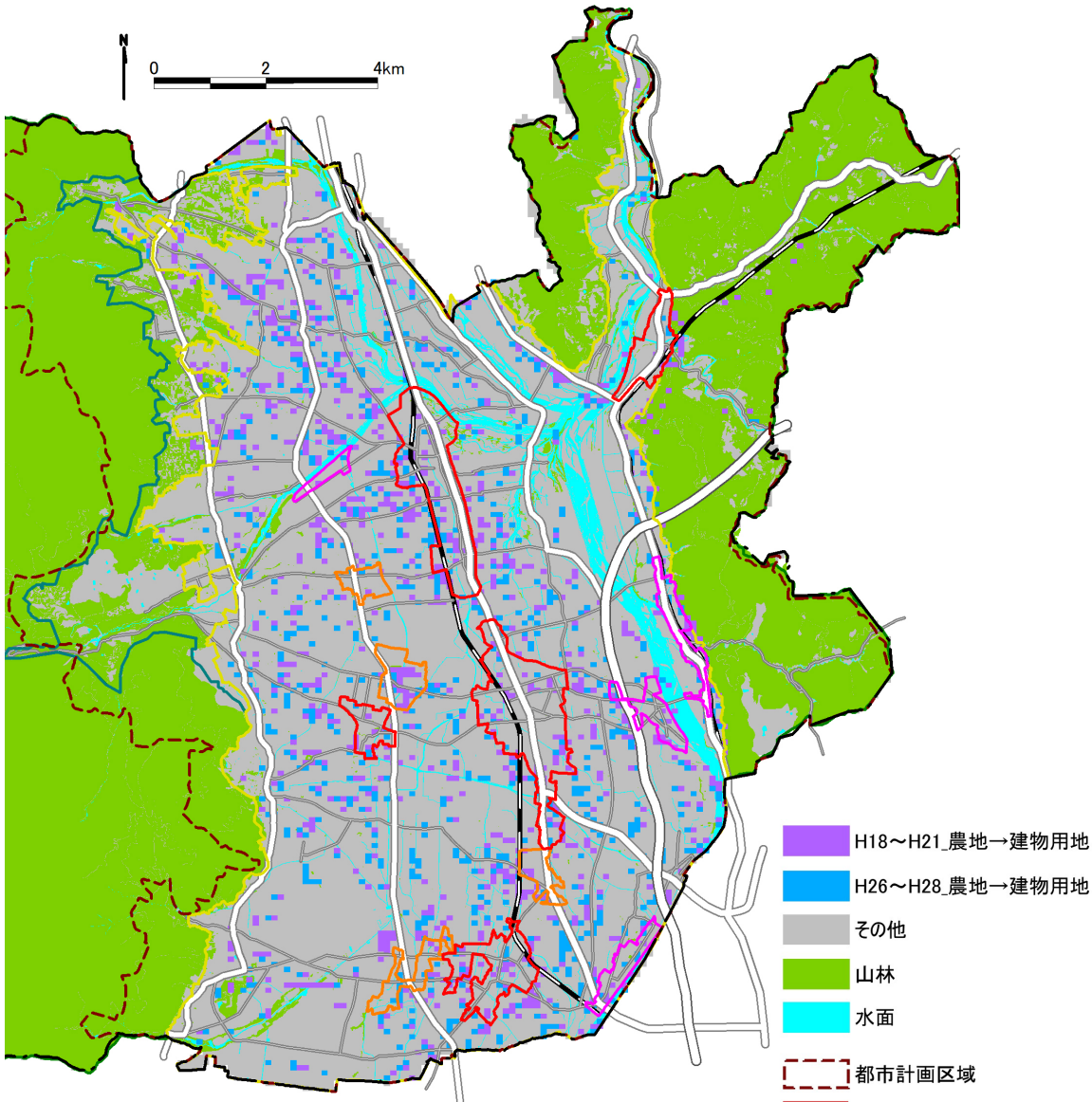


用途地域指定外区域	減少率
田	-2.2
畑	2.2
山林	-0.5
水面	-6.3
その他自然地	-2.4
住宅用地	1.2
商業用地	8.0
工業用地	-7.7
公共・公益用地	20.8
道路用地	-1.1
交通施設用地	-0.4
その他の公的施設用地	0.0
その他の空地	19.3

用途地域内　　用途地域外

図　土地利用の用途別の面積変化（平成 25 年－平成 30 年）

●国土数値情報に基づく 100m メッシュの土地利用データをもとに、土地利用制度の運用前３年間（平成 18 年から平成 21 年）と運用後３年間（平成 26 年から平成 28 年）において、農地から建物用地に変化したメッシュ数（面積）を基本区域別に比較してみると、拠点市街区域、準拠点市街区域及び田園居住区域で運用後のほうが比率が下がる一方、田園環境区域は逆に比率が高まっており、今後も同区域における開発圧力を適切にコントロールする必要があります。



	H18(2006)→H21(2009)		H26(2014)→H28(2016)	
	面積(ha)	比率(%)	面積(ha)	比率(%)
拠点市街区域	117	11.6	71	7.8
準拠点市街区域	29	2.9	25	2.7
田園居住区域	30	3.0	25	2.7
田園環境区域	781	77.3	771	84.5
山麓保養区域	17	1.7	9	1.0
森林環境区域	36	3.6	11	1.2
計	1010	100.0	912	100.0

図　農地から建物用地に変化した位置と面積（表）の比較

2.3　まちづくりに対する市民の評価　～アンケート※の結果～

※アンケート（安曇野市の将来のまちづくりに関するアンケート調査）の概要
〔調査目的〕土地利用や都市施設整備等、これまでの評価や今後の考えの把握
〔調査期間〕令和２年１月 16 日～令和２年２月２日
〔調査対象〕18 歳以上の市民 2,500 名（郵送、送付状 URL 等によるインターネットでの回答も可）
〔回答結果〕回収数：1,234 通（郵送 1,144 件、インターネット 90 件）（回答率：約 49.4%）

●満足されている内容（５年前との比較）

日頃の暮らしで満足されていることについては、ほとんどの項目で５年前より評価を上げており、やや有意な低下がみられたのは「自宅近くで農作物がつくれる」のみで、全体的に暮らしの満足度は高まってきている傾向が認められ、本計画に基づいて進めてきた都市計画の施策やまちづくりに関する取り組みに対する一定の評価と捉えられます。

日頃の暮らしで満足されていることは何ですか。 ※複数回答	2014（平成26）年度（5年前）		H26→R01 （%）	2019（令和元）年度（今回）	
	回答数	回答率（%）※R01同順		回答数	回答率（%）※回答率順
きれいな景色が見られる	854	76.0	▲ 0.8 ↘	921	75.2
水がおいしい・空気がきれい	815	72.5	▲ 1.4 ↘	871	71.1
身近な生活環境に緑が多い	—	—	—	673	54.9
下水道整備が行き届いている	398	35.4	8.1 ↗	533	43.5
日用品の買い物が便利	410	36.5	5.6 ↗	516	42.1
閑静な住宅地として維持できている	360	32.0	5.9 ↗	465	38.0
自宅近くで農作物がつくれる	459	40.8	▲ 3.7 ↘	455	37.1
防犯面で危険を感じる場所が少ない	166	14.8	11.0 ↗	316	25.8
公園などの憩いの場が近くにある	188	16.7	5.2 ↗	268	21.9
道路網が整備されている	154	13.7	2.1 ↗	194	15.8
身近にスポーツやレクリエーションを楽しめる場がある	—	—	—	170	13.9
道路交通の安全性が高い	83	7.4	4.1 ↗	141	11.5
公共交通（鉄道やバスなど）の便がよい	133	11.8	▲ 2.9 ↘	109	8.9
地価や家賃、固定資産税が安い　※H26「地価」記載なし	36	3.2	2.8 ↗	74	6.0
防災対策が十分	44	3.9	1.3 ↗	64	5.2
特に満足できることはない	31	2.8	2.0 ↗	58	4.7
公共施設のバリアフリー化が進んでいる	—	—	—	54	4.4
その他	28	2.5	▲ 0.9 ↘	20	1.6
合計	1,124 （無回答19件を除く）			1,225 （無効・無回答9件を除く）	

—：平成26年度アンケートでは調査していなかった項目

●不満と感じている内容（５年前との比較）

日頃の暮らしで不満に思うことについては、５年前より評価を下げたのは４項目（下表赤枠）で、うち有意な低下が認められる「公共交通（鉄道やバス等）の便が悪い」と「道路網の整備が不十分」、「防犯対策が不十分」の３項目は顕在化してきた課題として捉えることができます。他方、「特に不満に思うことはない」も有意な比率上昇を示しており、これはプラスの評価として捉えられます。

日頃の暮らしで不満に思うことは何ですか。 ※複数回答	2014（平成26）年度（5年前）		H26→R01 （%）	2019（令和元）年度（今回）	
	回答数	回答率（%）※R01同順		回答数	回答率（%）※回答率順
公共交通（鉄道やバスなど）の便が悪い	506	45.0	5.5 ↗	618	50.5
通行に危険を感じる道路が多い	377	33.5	▲ 0.1 ↘	409	33.4
道路網の整備が不十分	228	20.3	3.3 ↗	288	23.5
日用品の買い物が不便	267	23.8	▲ 5.6 ↘	222	18.2
特に不満に思うことはない	127	11.3	6.4 ↗	216	17.7
身近にスポーツやレクリエーションを楽しめる場がない	—	—	—	208	17.0
地価や家賃、固定資産税が高い　※H26「地価」記載なし	201	17.9	▲ 3.2 ↘	179	14.6
防災対策が不十分	106	9.4	3.1 ↗	153	12.5
公園などの憩いの場が近くにない	189	16.8	▲ 5.0 ↘	144	11.8
防犯面で危険を感じる場所が多い	157	14.0	▲ 4.3 ↘	118	9.6
農地からの臭気が気になる	157	14.0	▲ 5.3 ↘	106	8.7
公共施設のバリアフリー化が不十分	—	—	—	93	7.6
地域の景観と調和しない建物等がある	68	6.0	0.8 ↗	84	6.9
その他	158	14.1	▲ 8.8 ↘	64	5.2
住宅地にふさわしくしない建物等があって不快	58	5.2	▲ 0.9 ↘	52	4.3
下水道整備が行き届いていない	41	3.6	▲ 1.4 ↘	28	2.3
工場などの騒音等が気になる	24	2.1	▲ 0.2 ↘	24	2.0
身近な生活環境に緑が少ない	—	—	—	20	1.6
合計	1,105 （無回答38件を除く）			1,223 （無効・無回答11件を除く）	

—：平成26年度アンケートでは調査していなかった項目

●自宅周辺に建てられると困る建物･施設（５年前との比較）

自宅周辺に建てられると困る建物･施設について、５年前よりとくに大きな比率上昇がみられるのは、「太陽光発電施設」、「マンション」、「アパート･長屋」の３項目（下表赤枠）で、近年、これらの施設や建物の立地については、とくに適正な立地コントロールが求められます。

ご自宅の周辺に建てられると困ると感じる建物･施設は何ですか。 ※複数回答	2014（平成26）年度（5年前） 回答数	回答率（%） ※R01同順	H26→R01 （%）	2019（令和元）年度（今回） 回答数	回答率（%） ※回答率順
パチンコ店	702	62.5	▲ 5.1 ↘	702	57.3
大規模な工場	524	46.6	▲ 0.8 ↘	561	45.8
マンション	320	28.5	10.6 ↗	479	39.1
物流センター･トラックヤード　※H26「物流センター」記載なし	497	44.2	▲ 9.1 ↘	430	35.1
資材置場			▲ 9.9 ↘	420	34.3
カラオケボックス	408	36.3	▲ 8.0 ↘	347	28.3
娯楽施設などを併設した大規模複合商業施設	345	30.7	▲ 3.5 ↘	333	27.2
太陽光発電施設　※H26「家庭用以外」記載あり	142	12.6	12.8 ↗	312	25.5
アパート･長屋	194	17.3	7.6 ↗	305	24.9
簡易宿所（民泊施設）	—	—	—	275	22.4
小規模の工場	204	18.1	2.7 ↗	255	20.8
特にない	—	—	—	219	17.9
宅配便の集配所	—	—	—	178	14.5
賃貸駐車場	134	11.9	1.8 ↗	168	13.7
ガソリンスタンド	120	10.7	2.9 ↗	166	13.6
携帯電話基地局	—	—	—	161	13.1
別荘	111	9.9	1.5 ↗	139	11.3
ドラッグストア、スーパーマーケット、ホームセンターなど日用品等を販売する商業施設　※H26「ドラッグストア」記載なし	70	6.2	3.2 ↗	116	9.5
コンビニエンスストア	65	5.8	2.0 ↗	95	7.8
農業関連施設	79	7.0	▲ 1.0 ↘	74	6.0
戸建住宅	46	4.1	1.1 ↗	64	5.2
福祉施設	—	—	—	59	4.8
その他	50	4.4	▲ 3.0 ↘	18	1.5
合計	999	（無回答144件を除く）		1,225	（無効･無回答9件を除く）

—：平成26年度アンケートでは調査していなかった項目

●自宅周辺に不足している（新たに必要な）施設

自宅周辺に不足している施設については、「特にない」と回答された方が半数近くで最も多く（下表赤枠）、次いで比率の高い「飲食店」は 20%未満で、全体的に暮らしに必要な施設の需要は満たされていると捉えられます。

買い物関連では「スーパーマーケット」が約 16%、「コンビニエンスストア」が約 11%、「ドラッグストア」が約６%で、不足感は低いと捉えられます。

ご自宅の周辺やお住まいの地域（小学校区）に足りてない（新たに必要）と思う施設はありますか。 ※複数回答	回答数	回答率（%） ※回答率順		回答数	回答率（%） ※回答率順
特にない	541	44.2	ドラッグストア	72	5.9
飲食店	220	18.0	学校や図書館などの教育･文化施設	71	5.8
スーパーマーケット	195	15.9	集会所など地域の交流施設	54	4.4
病院や診療所などの医療施設	157	12.8	認定こども園、保育所、幼稚園などの子育て支援施設	53	4.3
公園･緑地･広場	152	12.4			
コンビニエンスストア	138	11.3	宅配便の集配所	50	4.1
介護サービスなどの高齢者福祉施設	132	10.8	駐車場･駐輪場	32	2.6
銀行･郵便局	91	7.4	その他	28	2.3
合計				1,225	（無回答9件を除く）

●土地利用について問題と感じていること

土地利用について問題と感じていることについては、「特に問題と感じていることはない」と回答された方が最も多く（下表赤枠）、本市独自の土地利用制度に対する一定の評価として捉えられます。他方で、次いで比率の高い「郊外への商業立地による既成市街地のさびれ」や「開発による安曇野特有の景観の損失」なども継続的な課題として捉えておく必要があります。

いま現在、安曇野市内の土地利用について問題と感じていることはありますか。問題があるという方は、何を問題と感じていますか。

※複数回答	回答数	回答率（%）※回答率順
土地利用について特に問題と感じていることはない	349	34.5
郊外への商業施設立地で既成市街地がさびれてきている	292	28.8
開発によって安曇野特有の景観が損なわれてきている	265	26.2
開発などにより水環境の変化が生じている	195	19.2
農道沿いの大型店舗の増加により道路事情が悪化している	144	14.2
住宅開発で農地が侵食され、農業がしにくくなっている	136	13.4
その他	80	7.9
合計	1,013	（無回答221件を除く）

●人口の方向性及び住宅用地の確保に対する考え

今後の人口の方向性については、「現状維持」を望む声が最多で、「人口増」は最も低い比率となっています（下表赤枠）。ただ、４つの選択肢の回答の比率差は小さく、多様な考え方があることがうかがえます。

そうしたなかで、今後の宅地需要に対する住宅用地の確保で重視すべきこととしては、「空き家のリフォームやリノベーションの促進」の比率が突出して高く（下表赤枠）、次いで「既存の市街や集落内の空き地など低未利用地への誘導」の比率が高いこと等から、農地転用を伴わない形での人口の受け入れが重要になります。

日本全体が人口減少社会を迎え、安曇野市の人口も近年減少に転じていますが、今後の本市の人口の方向性をどうしていくのが望ましいと思いますか。

※択一回答	回答数	回答率（%）※回答率順
現在の人口を維持すべき	366	30.8
現在の人口より減ってもやむを得ないが、その減り方は緩やかになるようにすべき	299	25.2
人口は自然の流れにまかせ、特にその増減にこだわるべきではない	283	23.8
現在の人口よりも増やすべき	240	20.2
合計	1,188	（無回答46件を除く）

人口減少が進む中にあっても、市外からの転入や核家族化の進展に伴う市内での転居等により今後も一定の住宅需要が見込まれます。こうした需要に対し、住宅用地の確保は何を重視していくのが望ましいと思いますか。

※択2回答	回答数	回答率（%）※回答率順
空き家のリフォームやリノベーションを促す	760	65.4
既存の市街や集落内の空き地など低未利用地に誘導を図る	439	37.8
特に場所は限定せずに、住宅を建てたい場所･建てられる場所に自由に建てられるようにする	266	22.9
計画的に新たな住宅団地をつくって集約を図る	177	15.2
拠点市街の建物の中高層化を図り、土地の有効･高度利用を促進する	53	4.6
その他	35	3.0
合計	1,162	（無回答72件を除く）

●商業振興のあり方

商業振興のあり方については、「空き店舗や低未利用地の有効活用の促進と個店の魅力向上」が半数近い比率で（下表赤枠）、住宅用地同様に既存の施設や敷地の活用･改善が重要視されています。

安曇野市の商業振興のあり方として、何がより重要になるとお考えですか。

※択一回答	回答数	回答率（%）※回答率順
空き店舗や低未利用地の有効活用を促し、個店の魅力向上を図る	520	46.8
既存商店街の歩道の拡幅や街路整備など商業環境の充実を図る	277	24.9
インターチェンジ周辺や主要な幹線道路沿いに大規模な商業施設の誘致を図る	186	16.7
コンビニエンスストアをさらに増やして各集落の生活圏内に網羅する	85	7.7
その他	43	3.9
合計	1,111	（無回答123件を除く）

●新たな工業用地の確保

工業振興のあり方については、「既存の工業団地内やその周辺部に集積させる」が最多で約 38%となっています（下表赤枠）。他方で、「新たな工場や事業所を受け入れる必要はない」の比率は低く（下表赤枠）、少なくとも工業用地の確保の必要性はうかがえます。

安曇野市は交通の要衝にあって、工場進出に一定のニーズがある中で、既存の工場団地の用地は飽和状態にあります。今後、新たな工場や事業所の用地はどのように確保していくのが望ましいと思いますか。

※択一回答	回答数	回答率(%) ※回答率順
既存の工業団地内やその周辺部に集積させる	424	37.7
アクセス道路の整備を伴って開発に適した農地等があればまとめ、新たに集積を図るエリアをつくる	236	21.0
インターチェンジ周辺や主要な幹線道路沿いに新たに集積を図るエリアを設定する	193	17.2
集積を図ることに拘らず、各企業が望む立地条件に見合った場所に受け入れていく	150	13.3
新たな工場や事業所を受け入れる必要はない	97	8.6
その他	25	2.2
合計	1,125	（無回答109件を除く）

●観光に必要な基盤整備

観光に必要な基盤整備については、「散策路やサイクリングロードの整備やネットワーク機能の充実を図る」が最多で約 32%ですが、次いで「主要な観光施設にアクセスする道路の整備･充実を図る」も同程度に比率が高く（下表赤枠）、歩行者や自転車を中心とした交通インフラの整備が比較的重要視されています。

安曇野市の観光に必要な基盤整備として、何がより重要になるとお考えですか。

※択一回答	回答数	回答率(%) ※回答率順
散策路やサイクリングロードの整備やネットワーク機能の充実を図る	353	31.7
主要な観光施設にアクセスする道路の整備･充実を図る	326	29.3
訪日外国人旅行者(インバウンド)にも対応した標識や案内板の整備･充実を図る	214	19.2
民泊施設なども含め宿泊機能の充実を図る	150	13.5
その他	70	6.3
合計	1,113	（無回答121件を除く）

●まちづくりへの関心や関心のテーマ

まちづくりの計画づくりや活動等に関心があると回答された方は８割を超えているものの（下表赤枠）、そのうち「主体的に関わりたい」は２割程度にとどまり、関心や機会があっても主体的に関わることが困難な状況がうかがえます。

他方で、関心のあるまちづくりのテーマとしては、「環境問題」が最多ですが、次いで「防災」、「観光･歴史･文化」、「景観」も比率は低くなく（下表赤枠）、比較的幅広いテーマに関心がもたれていることから、これらのテーマに関する取り組みのなかで、できるだけ参加の機会をつくり、段階的に主体的な関わりにつなげていく工夫が求められます。

あなたはまちづくりの計画づくりや活動等に関心はありますか。

※択一回答	回答数	回答率(%) ※回答率順
関心はあるが、主体的に関わるのは難しい	710	60.1
関心があり、機会があれば主体的に関わりたい	250	21.2
関心はない	222	18.8
合計	1,182	（無回答52件を除く）

次のうち、あなたが関心のあるまちづくりのテーマはありますか。

※複数回答	回答数	回答率(%) ※回答率順
環境問題	475	49.8
防災	426	44.7
観光･歴史･文化	388	40.7
景観	368	38.6
防犯	276	29.0
みどり(緑化活動など)	215	22.6
その他	51	5.4
まちづくりの計画づくりや活動等に関心があると回答された方の合計	953	（無回答281件を除く）

2.4　現在の強みと今後の懸念･課題

前項までに示した本市の特徴や人口動態、土地利用の変化、市民の評価等もふまえ、まちづくりに関わる５つの項目「環境･景観･土地利用」、「交通網」、「生活基盤」、「産業・観光」、「防災」、について、「現在の強み」と「今後の懸念･課題」を整理しました。

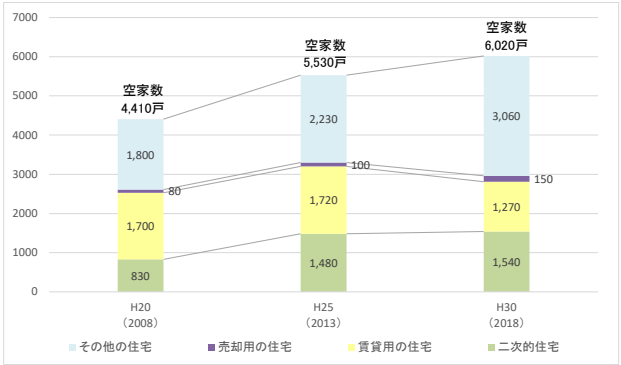
１）環境･景観･土地利用

《現在の強み》

- **北アルプスに育まれた美しい田園環境**
  - 北アルプスに端を発する清らかな川の流れや豊富な湧き水（おいしい水）
  - 田園や森林等の良好な環境ときれいな空気
  - 雄大な山岳と田園が織り成す美しい景色、視界の広がりをつくる平坦な土地
  - 先人たちが苦労してつくり、耕してきた農地
  - 農地を潤す堰や古くからの集落に残る屋敷林
  - 市街地から 2,500～3,000m級の山岳までの近さ（全国でも特殊な位置関係）
  - 適正な立地コントロールを行うための本市独自の土地利用制度
- **新たに暮らしたいという方々（居住ニーズ）の存在**
  - 市外から移り住む人々の多さにより維持されてきた人口
  - 魅力度上位 100 市区町村（地域ブランド調査）ランキングでの継続的な高い評価（2016 年：92 位、2017 年：91 位、2018 年：85 位、2019 年： 82 位）
  - 地方創生やコロナ禍を契機に関心が高まりつつある田舎暮らしのニーズ

《今後の懸念･課題》

- **将来の人口動態や多様な居住ニーズへの対応**
  - ほぼ推計どおりに進みつつある人口減少と少子高齢化に対応した居住誘導や住まい方
  - 居住誘導系の区域の人口動態の地域差（市内西寄りの地域での人口増加、中心市街地や山麓･山間部の一部で顕著な人口減少や高齢化）
  - 田園集落や山麓･山間部における居住者の受け入れ
  - 移住者の自治組織への未加入、移住者と既存住民との交流機会の少なさ
- **低未利用地の増加**
  - 森林の荒廃化、耕作放棄地の増加と荒廃化、空き家や空き地の増加、管理不足等に伴う景観や自然その他周辺環境への悪影響や、青空駐車場、資材置場、太陽光発電施設等の意図しない利用が無秩序に生じる懸念
  - 関心や機会があってもまちづくりへの主体的な参加が難しい状況



資料：住宅･土地統計調査（総務省）

市内の空家数の推移

２）交通網

《現在の強み》

- **広域交通との間に多様な玄関口をもつ交通体系**
  - ２つの高速道路インターチェンジ（安曇野 I.C.、梓川スマート I.C.）
  - 南北に貫く２つの鉄道路線（JR 大糸線、JR 篠ノ井線）
  - 比較的短い間隔で設置されている駅（JR 大糸線：市内９箇所）
  - ６つの高速バス停留所（長野道明科、長野道安曇野、安曇野スイス村、安曇野穂高、トラビス安曇野、温泉公園北口）
- **地域の移動ニーズに対応した市営の公共交通のしくみ**
  - 分散する集落からの交通弱者の移動等に柔軟に対応できるデマンド交通

《今後の懸念・課題》

- **重点的、効果的かつ効率的に進める道路整備計画の必要性**
  - 松本糸魚川連絡道路へのアクセス道路の整備検討
  - 財源不足や維持管理費用の増加に伴い、限られる新規の道路整備費用
  - 都市計画道路の長期未着手路線の早期事業化
- **生活道路における交通の円滑化への対応**
  - 東西を円滑に移動できる幹線道路の不足（鉄道との平面交差、狭隘区間、クランク、行き止まり等）
  - 通勤時間帯における松本方面に向かう道路（橋梁付近）への交通集中
  - 沿道に商業店舗が林立する道路、交通量の多い幹線道路で右折レーンのない交差点付近における交通渋滞
- **広域交通や物流の円滑化への対応**
  - 大北方面から安曇野 I.C.に接続する道路の観光シーズンにおける渋滞（観光利用と日常利用の混在）
  - 高速交通網との接続や拠点施設へのアクセス（中央線特急と大糸線･篠ノ井線との接続、北陸新幹線と篠ノ井線との接続、新幹線駅のある東信方面への道路アクセス、信州まつもと空港へのアクセス）改善の必要性
  - 高速バス利用者の駐車場の不足
  - 工業地周辺の住宅地内の生活道路を通行する大型車両の増加
- **公共交通機関の充実･利用促進の必要性**
  - 鉄道利用の不便（列車の運行頻度の少なさ、終電の早さ、単線でかつ駅間距離が短いことによる乗車時間の長さ、車や自転車からの列車への乗換えに対応した駐車場･駐輪場の不足等）
  - CO2 の排出等、環境負荷の大きい自動車交通から公共交通への転換
  - パーク＆ライド駐車場の整備の必要性
  - 郊外に居住する高齢者等交通弱者の移動手段の確保
  - デマンド交通や定時定路線バスのしくみの改善の必要性（幅広いニーズへの対応、周辺自治体との連携等）

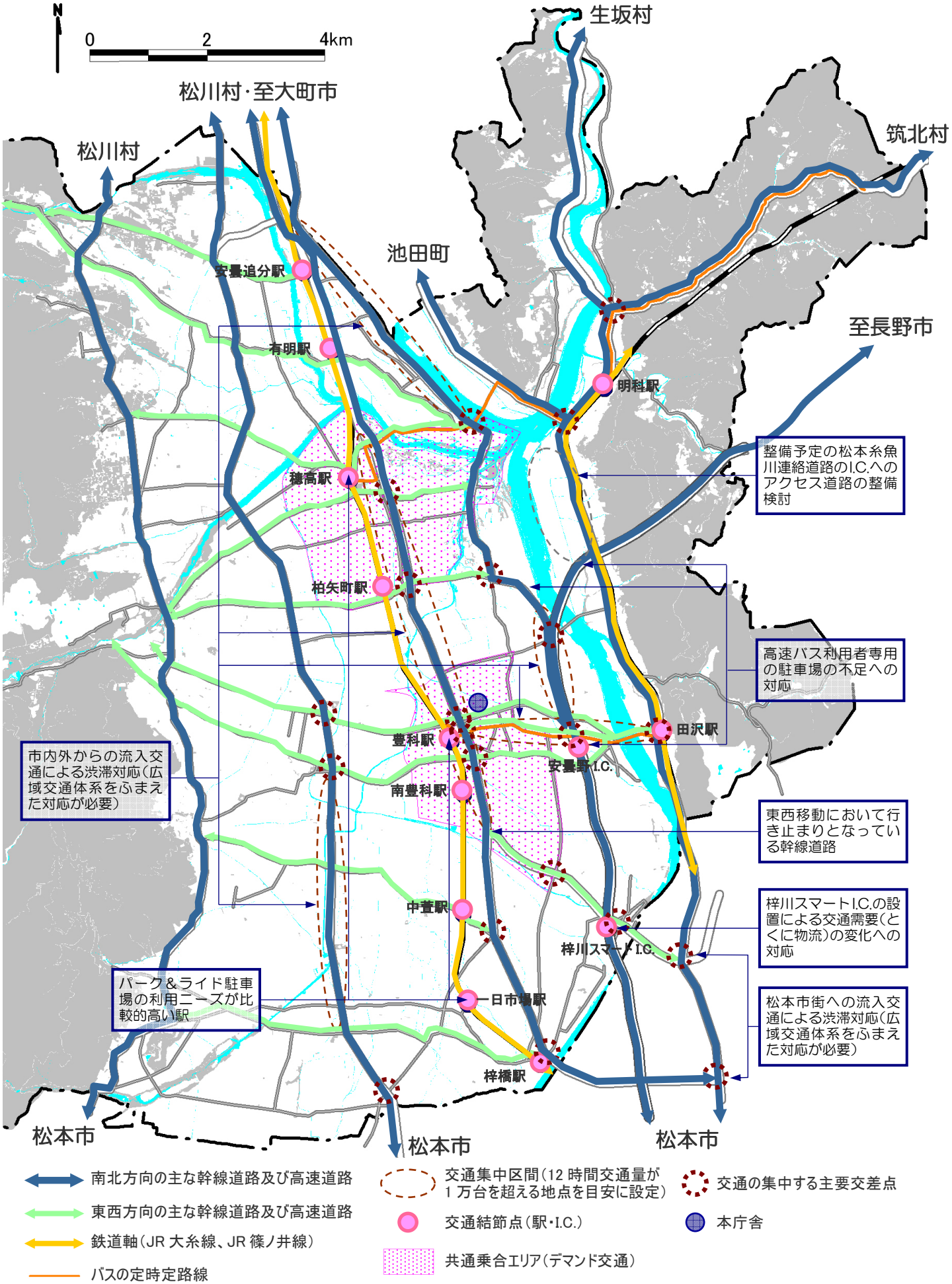


図　まちの骨格となる道路網及び公共交通に関する現況・課題

３）生活基盤

《現在の強み》

➢ 緑に恵まれた生活環境の良さ

・東西の山並み、まとまりのある耕地として保全されている農地、河畔林、屋敷林等様々な緑に囲まれた心安らぐ生活環境

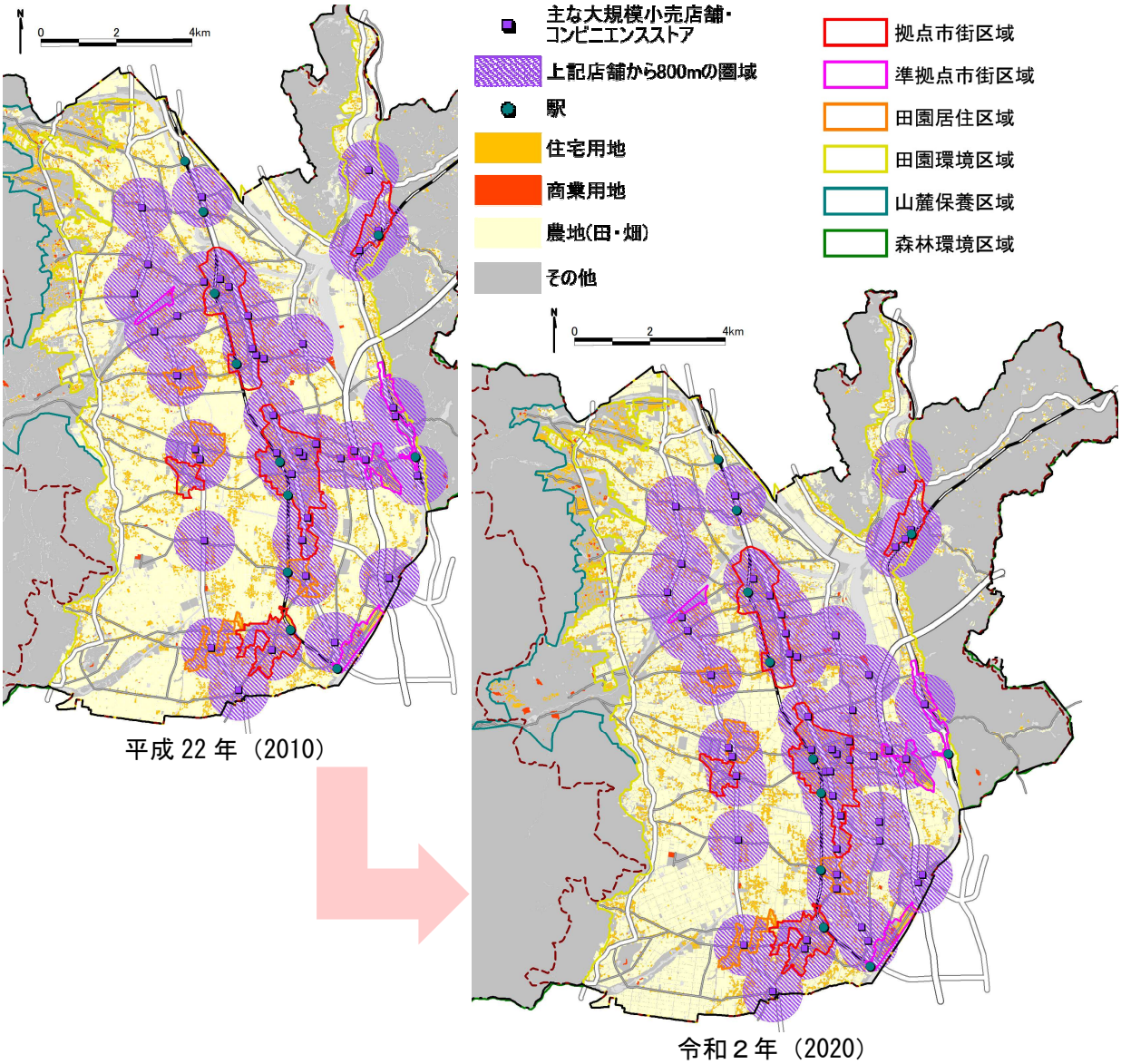


図　主な店舗の分布状況の変化

《今後の懸念・課題》

➢ 田園環境の暮らしやすさに対する市街地の魅力の明確化

・大規模小売店舗やコンビニエンスストア等、生活に必要な施設が全市的に暮らしの場から程近い距離にある便利さ（市民アンケートにおける自宅周辺や地域で不足する施設の問いでは「特にない」が最多で約 44%）が田園環境でも享受できている一方で、市街地内での生活の魅力が見えにくい現状

➢ 田園や里山の生活文化を支える人材やコミュニティの維持継承

・生活環境を良好な状態に保つコミュニティ活動の継続

・良好な景観をつくり出している屋敷林や集落で継承されてきた伝統文化の保全

４）産業・観光

《現在の強み》

- **県内有数の製造業**
  - 県全体の 7.9%を占める製造品出荷額（県内５位/77 市町村：令和元年）
- **盛んな米生産、地域の特色を活かした産業**
  - 全国有数の米の産地（県内１位/77 市町村：令和元年）
  - 清らかで豊富な水を活かしたわさび生産、信州サーモン等の養魚
  - 肥沃な大地を活かしたりんご生産
- **人々の暮らしと自然が関わって生まれてきた様々な観光資源の存在**
  - 水田やわさび畑、屋敷林、堰、山岳等の良好な景観や環境を基調にした集客施設（沿道休憩施設、飲食店、温泉付宿泊施設、美術館等）
  - 主な観光地における年間利用者数は延べ約 500 万人（令和元年）
- **高速道路へのアクセスの良さ**
  - 市内の大半の区域が安曇野 I.C.から 10km 圏内

《今後の懸念・課題》

- **新たな事業所用地の不足（企業の進出ニーズへの迅速な対応）**
  - 既存の産業団地、工業団地内の空き用地の不足、周辺農地の転用不適
- **観光資源でもある農地の保全**
  - 農家の担い手の不足と高齢化の進行に伴う営農継続への不安
  - 山麓・山間部における野生鳥獣による農作物被害の多発

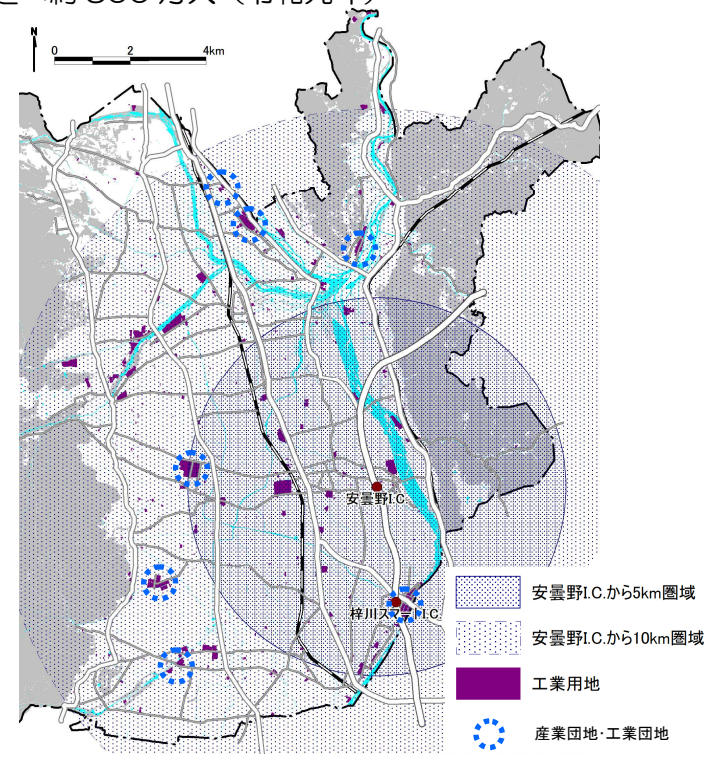
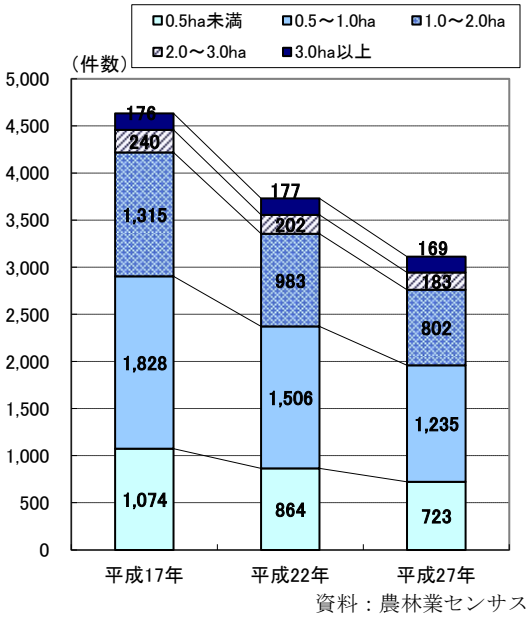
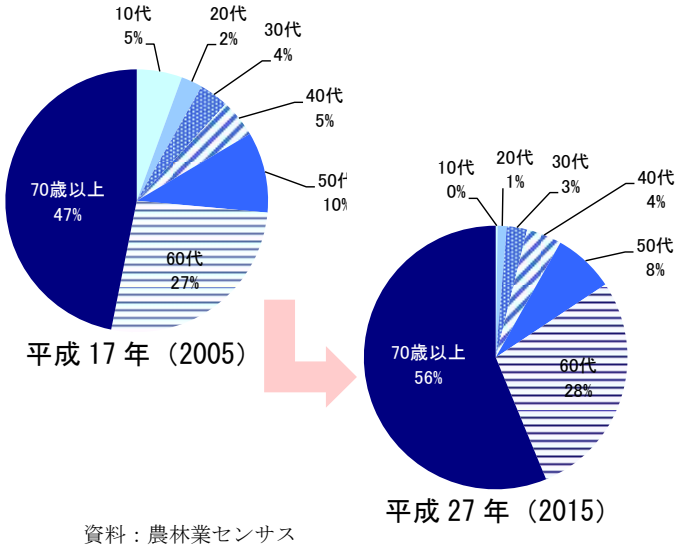


図　工業用地の分布と安曇野 I.C.からの距離圏



資料：農林業センサス

図　農家の件数推移



資料：農林業センサス

図　農業就業者の年齢構成の変化

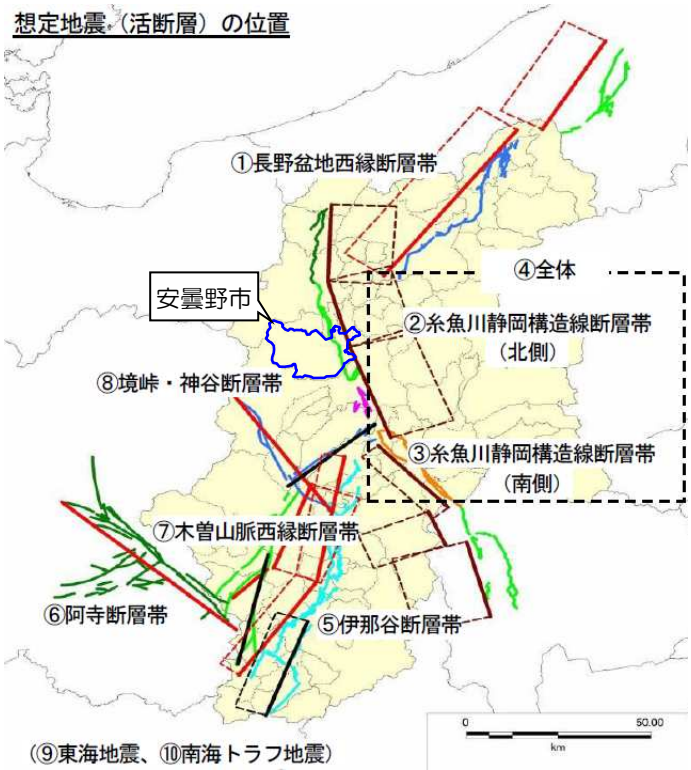
５）防災

《現在の強み》

- **避難・復旧を進めやすい条件、延焼防止機能を有する農地等の存在**
  - 全体的に建物が低層で、建物密集地が比較的少ない
  - 農地を含め、オープンスペース（開けた空間）の多さ

《今後の懸念・課題》

- **様々な自然災害への対応**
  - 市内全域で大規模な被害が想定される糸魚川ー静岡構造線上の地震
  - 土砂崩れや土石流に伴う土砂災害の危険性のある東西の山麓・山間部、一部犀川以東の市街地と土砂災害警戒区域の重なり
  - 浸水等水害の危険性のある低地部（三川合流地帯、市内を流れる複数の河川や水路の周辺部）にある都市的土地利用（一部市街地を含む）
  - 各種災害ハザードマップの存在・内容の周知
  - 近年多発する集中豪雨等想定を超える災害の可能性
- **密集市街における建築物の老朽化**
  - 地震発生時に家屋の倒壊や同時多発的な火災の発生、延焼被害の拡大等の懸念
  - 土地建物の所有形態の複雑さ等により進まない市街地の再整備
- **避難場所の不足・避難施設の老朽化**
  - 市街地・集落の分布や規模にみる避難場所の不足
  - 避難施設の老朽化の進行、耐震化対応（指定緊急避難場所使用可率：87%）
- **緊急輸送路の不足**
  - 東西方向で緊急輸送路に位置付けられているルートが１路線のみ

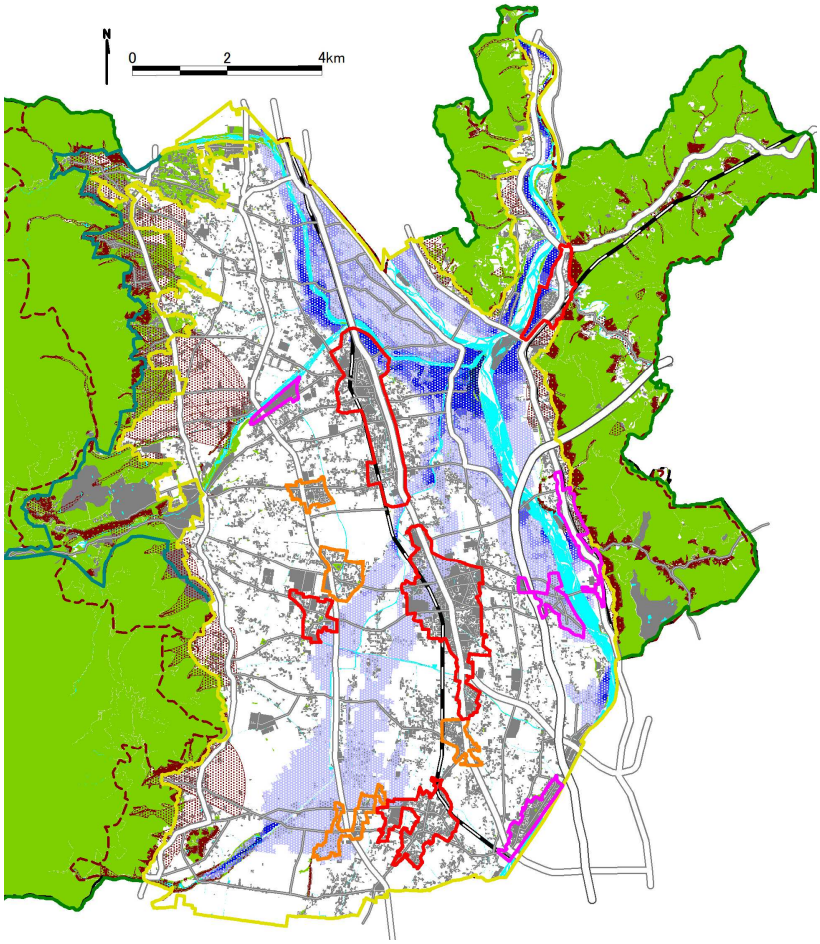


	長さ（km）	マグニチュード	
		Mj	Mw
①	58	7.8	7.1
②	84	8.0	7.1
③	66	7.9	7.2
④	150	8.5	7.6
⑤	79	8.0	7.3
⑥	60	7.8	7.2
⑦	40	7.5	6.9
⑧	47	7.6	7.0
⑨		8.0	8.0
⑩		9.0	9.0

資料：安曇野市地域防災計画（令和元年度修正版）

※気象庁マグニチュード（Mj）とモーメントマグニチュード（Mw）について、断層による内陸の地震は、断層の長さ（推定）から気象庁マグニチュード（Mj）を算出している。その後、その断層の長さを用いて震源（波源）断層モデルを作成し、モーメントマグニチュード（Mw）を求めている。

図　本市において大規模な地震が想定される活断層の位置



浸水想定区域
- 0.5m未満
- 0.5～1.0m未満
- 1.0～2.0m未満
- 2.0～5.0m未満
- 5.0m以上

土砂災害警戒区域

土砂災害特別警戒区域

都市的土地利用
（住宅･商業･工業･公共公益･交通･空地）

拠点市街区域

準拠点市街区域

田園居住区域

田園環境区域

山麓保養区域

森林環境区域

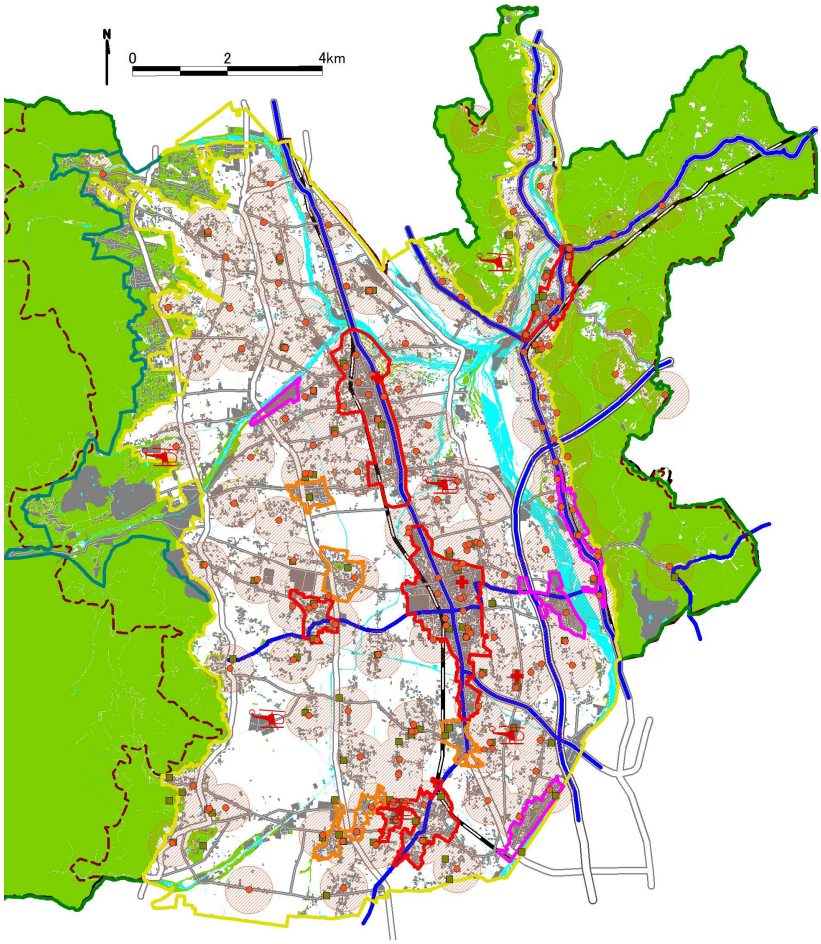
都市計画区域

山林

水面

資料：安曇野市防災マップ
（令和２年３月改定）

図　水害･土砂災害の危険性



避難施設

避難施設から500m圏域

避難場所

主な医療施設

ヘリポート

緊急輸送路

都市的土地利用
（住宅･商業･工業･公共公益･交通･空地）

拠点市街区域

準拠点市街区域

田園居住区域

田園環境区域

山麓保養区域

森林環境区域

都市計画区域

山林

水面

※「安曇野市地域防災計画」に緊急輸送路として示されている以下の路線
- 長野自動車道
- 国道 19 号
- 国道 143 号
- 国道 147 号
- 国道 403 号
- 県道 51 号(主要地方道安曇野インター堀金線)
- 県道 57 号(主要地方道大町明科線)
- 県道 315 号(主要地方道波田北大妻豊科線)
- 広域農道

図　防災施設の整備状況

2.5　今後のまちづくりの方向性

前項までに整理した現状･課題に加えて、社会情勢の変化や社会の要請をふまえ、今後のまちづくりの方向性を以下にまとめます。

現状･課題

社会情勢の変化や社会の要請

■持続可能な社会の構築
- 地球温暖化の緩和（CO2 削減）
- 生物多様性の保全
- 資源枯渇への対応（再生可能エネルギーの活用）

■人口急減･超高齢化社会の到来
- 年少人口と生産年齢人口の漸減
- 景気低迷による税収減や社会保障費の増加に伴う財源不足
- 令和 7 年には団塊の世代が後期高齢者層に突入（2025 年問題）
- 運転免許返納者の増加

■自然災害の頻発化･激甚化
- 大規模な地震災害への対応
- 異常気象による集中豪雨（それに伴う土砂災害や水害）

■社会資本の老朽化
- 建設後 50 年以上経過する施設の割合の加速度的な増加
- 維持管理･更新費の増大
- 社会資本ストックの有効活用

■第４次産業革命（Society5.0 社会）
- 人工知能（AI）や IoT（インターネットによる人とモノのつながり）
- 自動化やロボット化の進展
- ビッグデータの活用

■真の観光立国の実現
- 外国人旅行者の増加に伴う地域独自の文化、資源への関心の高まり
- 「モノ消費」から「コト消費」への移行

■生活様式の変化
- ウィズコロナ･アフターコロナの社会変化への対応
- テレワークやサテライトオフィス等働く場･働き方の多様化

今後のまちづくりの方向性

●北アルプスの山並みを背景にした良好な景観の保全･継承
●農地や屋敷林、里山林、人工林等の暮らしや産業に密接に関わる優良･有用な自然的資源･資産の維持･継承
●持続可能な開発目標（SDGs）やゼロ･カーボン 2050 の達成への寄与

●将来の人口規模や年齢構成もふまえた居住誘導と適正な立地コントロール（多様な居住ニーズへの適切な対応）
●空き家や空き地等の低未利用地の適正管理と有効活用
●既存の都市基盤の適切な維持管理と長寿命化、更新による機能向上
●駅や市街地へのアクセスのしやすさの確保

●地域資源を活かし、新規雇用や地域の活性化に資する企業の受入体制の強化
●多様な企業の進出ニーズや働き方への対応
●高速道路や幹線道路などの交通網や立地条件を活かした産業振興
●良好な景観や環境と産業との調和

●多様な自然災害の頻発化･激甚化への対応力の強化（減災の視点や、災害発生時、復旧･復興の段階ごとの対応等）
●災害リスクを考慮した立地コントロールや公共施設等の適正配置
●歩行者や自転車が安全かつ快適に移動できる交通環境の整備
●AI や IoT 等の先進的技術の有効活用

●水や緑、歴史･文化、景観、観光施設等、多彩な地域資源の活用
●良好な景観や環境の維持管理や創出に資する地縁コミュニティの継承や新たなコミュニティの創出
●地域住民による主体的なまちづくりの推進